



瑞穂町 防災ハザードマップ

Mizuho Town Disaster Hazard Map

瑞穂町防災地図 미즈호 정 방재 하자 맵

Mapa de prevención de desastres de ciudad de Mizuho

瑞穂町役場 〒190-1292 東京都西多摩郡瑞穂町大字箱根ヶ崎 2335

TEL : 042-557-0501

令和4年8月発行

このマップは、瑞穂町で発生する洪水や地震による危険がある範囲と、危険が迫った時に避難する「指定緊急避難場所」などを示したもので、町民の皆様の避難に役立つように作成したものです。これらのマップを参考に、日頃からどのように避難すればよいかなどを家族で話し合い、いざという時に危険を回避できるようになります。マップは、貼り付けておいたり、すぐに取り出せるところに保管しておきましょう。

洪水について

洪水には、外水氾濫と内水氾濫があります。

外水氾濫

大雨によって河川の水位が高くなると、川の水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊することがあります。これを外水氾濫といいます。

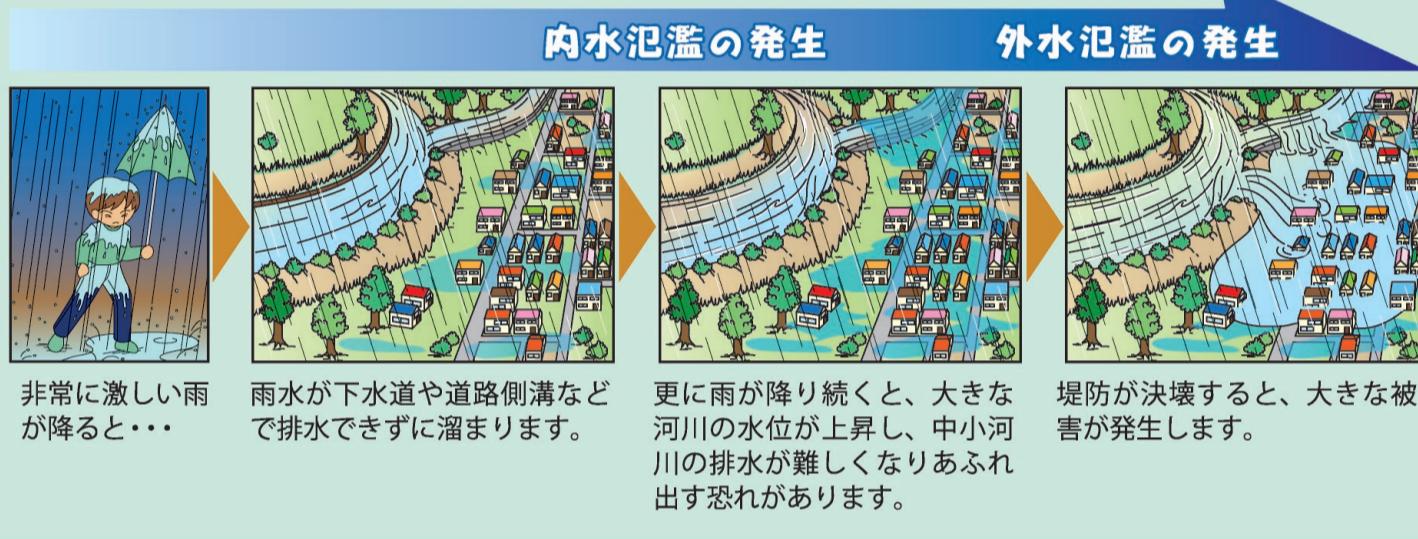
この防災ハザードマップに示した浸水予想区域図は、外水氾濫を想定したもので。



内水氾濫

短時間での強い雨などによって雨の量が下水道や道路溝などの排水施設の能力を超えて、河川の水位が高くなつて、雨水の排水ができないことによって発生する浸水を内水氾濫といいます。

なお、この防災ハザードマップには、過去の風水害被害実績として、内水氾濫した箇所が示されています。



避難所等の種類

指定避難所でのマナー

指定避難所は、大勢の方が利用します。災害の状況により、数日間避難所で生活しなければならないこともあります。マナー、ルールを守り、お互いに助け合って生活する心掛けましょう。

指定緊急避難場所

居住者等が災害から命を守るために緊急的に避難する施設又は場所

指定避難所

災害の危険性があり避難した住民等を、災害の危険性がなくなるまでに必要な間滞在させ、又は災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させるための施設

広域避難場所等

地震などによる火災が延焼拡大して地域全体が危険となつた場合に避難する場所

避難行動要支援者への協力

災害発生時に自分の力で避難することが困難で、避難するためには他の方の支援が必要な方々のことと避難行動要支援者といいます。一般的に、高齢者、障害のある方、妊産婦、乳幼児、日本語を十分理解できない外国人の方などになります。地域で協力しながら支援しましょう。

※ここに示した状況は一般的なもので、避難行動要支援者や家族の状況などにより必要となる支援も異なります。

視覚障害のある方には

誘導するときは、声をかけながら杖を持っていない腕の肘のあたりに軽く触れるか、腕を貸してゆっくり歩きましょう。

身体の不自由な方には

それぞれの人に適した誘導方法を確認し、早めの避難を心掛けましょう。車椅子の場合、階段では必ず複数人で協力し、上がるときは前向きに下りるときは後向きにして、恐怖感を与えないようになります。

妊産婦の方・乳幼児には

困っていることがない声を掛け、避難所まで一緒に行動しましょう。常備薬を忘れずに。

聴覚障害のある方には

手話、筆談、身振りなどで現在の状況を知らせましょう。

外国の方には

身振りなどで現在の状況を知らせ、避難所まで一緒に行動しましょう。

土砂災害について

土砂災害は、土石流、崖崩れ(急傾斜地の崩壊)、地すべりの3種類に分類されています。

土石流

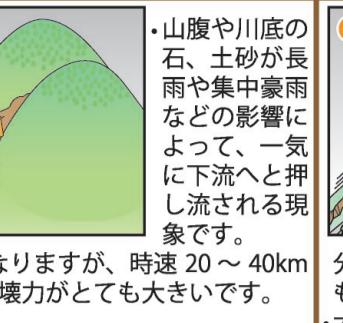
急傾斜地の崩壊、水の浸透や地盤などの影響によって、急速に崩れ落ちる現象です。突然発生し、かつてはスピードが速いです。

地すべり



・山腹や川底の土、砂が長雨や集中豪雨などの影響によって、一気に下流へと移動する現象です。斜面の表面部が滑り落ちる表層崩壊と、深層の地盤までが崩れ落ちる深層崩壊があります。

崖崩れ(急傾斜地の崩壊)

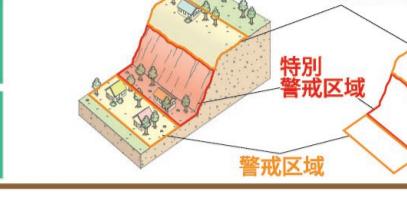


・急傾斜地の崩壊によって異なるますが、時速 20~40km という速度で、破壊力がとても大きいです。大雨や融雪時に発生しやすく、一度に広範囲が動くため、被害が大きくなります。

土砂災害危険箇所として下記の2種類があります。

土砂災害特別警戒区域
土砂災害が発生した場合に、建築物の損壊が生じ、住民の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域

土砂災害警戒区域
土砂災害が発生した場合に、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれがある区域



日頃からの準備

いつ起こるか分からぬ災害から身を守るため、非常持出品・備蓄品の準備、避難所の確認などを行い、いざという時に備えましょう。

避難所等をあらかじめ確認しておく。

洪水の際に避難する場所を「防災ハザードマップ」で確認しておきましょう。

避難所等まで実際に歩いてみる。

実際に避難所まで歩いてみて、ふたの無い側溝など避難時に危険だと感じる場所を確認しておきましょう。また、避難所までの時間も確認しておきましょう。

地域でいざという時のことを話し合う。

地域全体が安全に避難するために、ご高齢の方や障害のある方などへの避難時の配慮を、事前に話し合っておきましょう。

非常時に持ち出すものを準備しておく。

非常持出品を日頃から準備し、食料や乾電池などは、定期的にチェックしておきましょう。持出品は、必要最小限にしましょう。

二次災害を防ごう。

地盤全体が安全に避難のために、ご高齢の方や障害のある方などへの避難時の配慮を、事前に話し合っておきましょう。

防災ハザードマップは自立つ所に保管

「防災ハザードマップ」は、自立つ所に保管し、非常に持ち出します。あらかじめ、マイ・タイムラインを記入しておきましょう。

個人や家庭、地域のニーズに応じて備蓄を工夫しましょう

地域には高齢者、障害のある方、妊娠・乳幼児、外国人などの要配慮者をはじめ、様々な住民がいます。地域で備蓄する場合は、多様な視点や要配慮者など地域の多様な生活者の意見を反映できるようにしますが大切です。

冷蔵庫や冷凍庫の食材を活用する

冷蔵庫や冷凍庫の食材を活用する場合は、定期的にチェックして月に1、2度はローリングストック法で備蓄したものを活用するなど、工夫しましょう。

食べながら備えるローリングストック法とは

ローリングストック法は、保存食を日常的に消費し、食べた分だけ買い足していく備蓄方法です。

ローリングストック法で備蓄した非常食を活用する

定期的に購入しておき、いつでも簡単に食べられるようにします。

個人や家庭、地域のニーズに応じて備蓄を工夫しましょう

地域には高齢者、障害のある方、妊娠・乳幼児、外国人などの要配慮者をはじめ、様々な住民がいます。地域で備蓄する場合は、多様な視点や要配慮者など地域の多様な生活者の意見を反映できるようにしますが大切です。

個人や家庭、地域のニーズに応じて備蓄を工夫しましょう